

伊集院保健所感染症情報

2026年第32週（令和8年8月3日～令和8年8月9日）

【お問い合わせ先】 ☎899-2501 鹿児島県日置市伊集院町下谷口 1960-1 鹿児島地域振興局保健福祉環境部（伊集院保健所）

TEL (099) 273-2332 / FAX (099) 272-5674 / E-mail kago-kenko-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

鹿児島地域振興局 URL <http://www.pref.kagoshima.jp/ak01/chiiki/kagoshima/index.html>

定点把握感染症

管内流行発生警報発令！：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点医療機関【ARI2（インフルエンザ・COVID）、小児科1、基幹定点1】

疾患名	警報基準値		注意報	伊集院保健所管内					県	
	開始	終息	基準値	第29週	第30週	第31週	第32週	先週からの増減	第31週	前週からの増減
ARI（急性呼吸器感染症）	—	—	—	100.00	67.00	81.50	109.50	↗	46.18	↗
インフルエンザ	30	10	10	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.12	↗
COVID-19	—	—	—	19.50	5.50	3.50	2.00	↘	2.21	↘
咽頭結膜熱	3	1	—	0.00	1.00	0.00	0.00	→	0.48	↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	—	2.00	5.00	6.00	10.00	↗	1.84	↗
感染性胃腸炎	20	12	—	0.00	1.00	0.00	1.00	↗	2.90	↗
水痘	2	1	1	0.00	1.00	0.00	0.00	→	0.23	↘
手足口病	5	2	—	0.00	3.00	2.00	2.00	→	0.48	↘
伝染性紅斑	2	1	—	2.00	0.00	0.00	0.00	→	0.10	↘
突発性発しん	—	—	—	2.00	1.00	0.00	0.00	→	0.29	→
ヘルパンギーナ	6	2	—	0.00	0.00	1.00	0.00	↘	0.16	↘
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	0.00	0.00	0.00	→	0.00	↘
R S ウイルス感染症	—	—	—	3.00	1.00	2.00	7.00	↗	2.19	↗

※警報域：太文字で赤色の塗りつぶし、注意報域：太文字で黄色の塗りつぶし

TOPIC

災害時の熱中症予防

～避難生活・片付け作業時の注意点～

熱中症は、死に至る可能性のある重篤な病気ですが、適切な予防・対処を行えば、防ぐことができます。災害時には、慣れない環境や作業で熱中症のリスクは高くなりますので、お互いに声をかけながら、十分に注意しましょう。

1. 熱中症を予防するためには

①暑さを避けましょう

涼しい服装、日傘や帽子、また、在宅避難等の場合はクーラーの積極的な活用を。

停電が長引く可能性がある場合、特に高齢者、こども、障害者の方々は、冷房設備が稼働している避難所への避難も検討しましょう。

②のどが渇いてなくてもこまめに水分・塩分を取りましょう

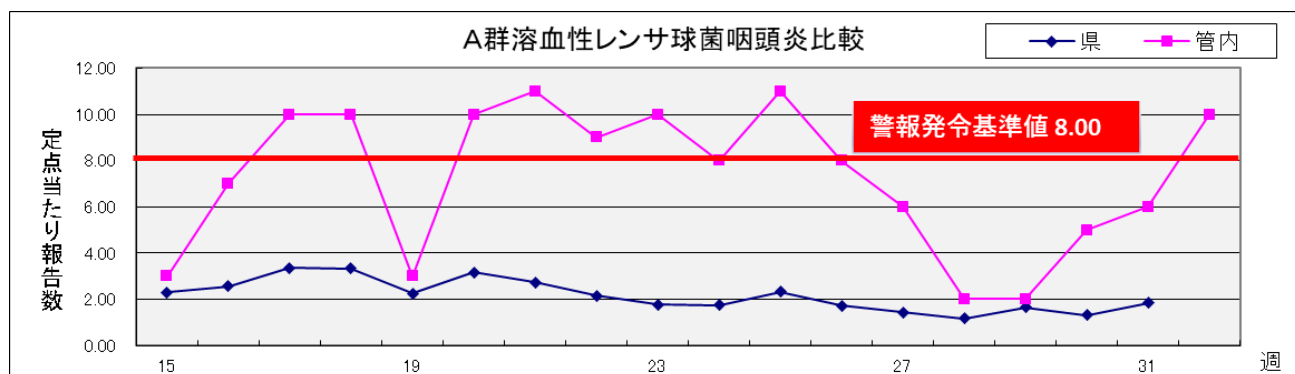
③暑さに関する情報を確認しましょう

身の回りの気温・湿度・暑さ指数（WBGT）の確認を。

「熱中症警戒アラート」（令和3年度から全国展開）も活用を。

● 注意すべき感染症

・ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（流行発生警報発令！）



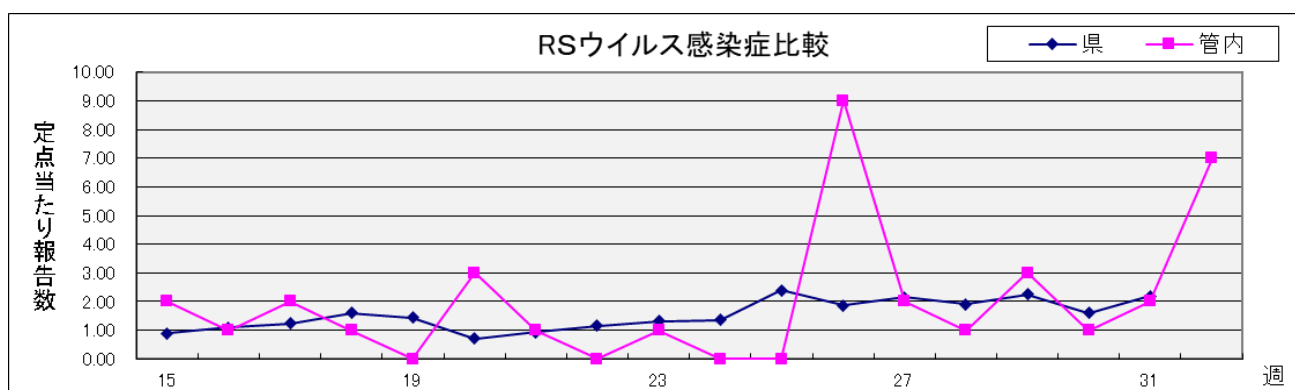
第 32 週の伊集院保健所管内における A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、10 人でした。年齢別では、4 歳・5 歳（各 3 人）、7 歳（2 人）、2 歳・6 歳（各 1 人）の報告でした。

感染すると、2～5 日の潜伏期間を経て、突然の発熱や全身倦怠感、咽頭痛で発症し、舌が莓のように赤くザラザラとした状態になることもあります。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛沫感染」、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」が主な感染経路です。

患者と濃厚接触を避け、手洗い、咳エチケットなどの一般的な予防法を励行しましょう。

・ RS ウイルス感染症



第 32 週の伊集院保健所管内における RS ウイルス感染症の報告数は、7 人でした。年齢別では、2 歳（3 人）、1 歳（2 人）、0～5 ヶ月・3 歳が（各 1 人）でした。

RS ウイルス感染症は、急性の呼吸器感染症で、年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれており、特に生後 6 ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。

潜伏期は 2～8 日とされ、発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、場合によっては、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てきます。感染経路は、感染した人の咳やくしゃみなどによる飛まつ感染と、ウイルスの付着した手指や物などを介した接触感染といわれています。

予防対策は、鼻汁、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用する、手洗いや手指衛生といった基本的な対策の徹底を行うことが大切です。

また、60 歳以上を対象としたワクチンと、生まれてくる子どもの予防を目的とした妊婦さんを対象としたワクチンもあります。

○学校における感染症による出席停止の状況 8/3～8/9（出典：学校等欠席者・感染症情報システム）

今週の報告は、ありませんでした。